令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・大田区学習効果測定において基本的な計算については7割程度の定着を達成した。
- ・全学年で学習規律の徹底を図り、授業の展開を統一することで児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・基礎問題の正答率においては、どの学年も目標値を上回ることができていた。
- ・活用問題の正答率においては、4・6年は目標値と同等であった。

(2) 課題

- ・大田区学習効果測定において、4・5年の基礎の正答率が区の平均正答率より下回っており、基礎・基本の定着に課題がある。
- ・大田区学習効果測定において、活用の正答率が区の平均正答率より下回っており、既習事項から考える習慣を身に付けさせる。
- ・思考、判断、表現の正答率が区の平均正答率より下回っており、問題を正しく読み取る力を向上させる必要がある。
- ・記述の平均正答率が目標値を下回っており、自分の考えを式や図・文章で書き表す力を向上させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を0.8ポイント上回った。	/	/
第5学年	目標値を1.3ポイント下回った。 達成率は、昨年度より4.1ポイント上回った。	令和5年度の4年生の目標値を1.6ポイント下回った。	/
第6学年	目標値を5.4ポイント上回った。 達成率は昨年度より18ポイント上回った。	令和5年度の5年生の目標値を4.2ポイント上回った。 達成率は昨年度より1.7ポイント下回った。	令和4年度の4年生の目標値を5.9ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を0.6ポイント上回った。「円と球・三角形」の正答率が低くなっている。円の半径についての理解の定着が不十分である。また、半径の理解が曖昧になっているので、二等辺三角形の作図が困難である。	4年生は、目標値を1.6ポイント上回った。「表とぼうグラフ」の正答率が低くなっている。1目盛りの大きさを読み取ることに困難が見られる。また、理由や自分の考えなど記述する活動を増やす必要がある。	4年生は、目標値を1.5ポイント下回った。生活や学習に活用しようとする態度は見られるが、知識の未定着や技能が伴っていない。知識があっても活用する段階まで達していない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年生は、目標値を0.8ポイント下回った。</p> <p>6年生は、目標値を6.9ポイント上回った。</p> <p>5年生は、目標値を超えている単元もあるが、基本的に目標値に達していない。特に「億と兆・概数の表し方」の単元に苦手意識が見られる。位の仕組みについての理解が不十分である。前学年の内容から振り返るなど、既習事項の確認を徹底する必要がある。</p> <p>6年生は、割合の問題に課題がある。基準量、比較量、割合など、どれがどの数値か判断することに困難さが見られる。文章問題の読み取り等に力を入れる。</p>	<p>5年生は、目標値を3.0ポイント下回った。</p> <p>6年生は、目標値を2.1ポイント上回った。</p> <p>5・6年生ともに、記述式問題の正答率が目標値に高い数値で届いていない。記述式問題の自分の考えや根拠の説明などに苦手意識がある。授業等で、自分の考えや根拠の説明を書く活動を多く取り入れる必要がある。</p>	<p>5年生は、目標値を3.7ポイント下回った。</p> <p>6年生は、目標値を0.6ポイント下回った。</p> <p>授業中では、意欲的に問題解決しようとする態度は見られるが、既習事項から考えたり、自分の考えを言葉でまとめたりするのに強い苦手意識がある児童が多い。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>学習端末のデジタルドリルを活用して反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することで理解を深め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>長さを測る活動や経過時間を考える場面など体験活動を算数以外の学校生活でも多く取り入れ、児童の量感を高め、測定技能の定着を図る。</p> <p>具体物を使い、数の読み方や表し方、数の構成や順序、大小などを実感させて理解を深める。</p>	<p>問題場面を動作化したり、具体物の操作活動を取り入れたりとすることで、児童の問題への理解を深め、問題解決の見通しをもたせる。</p> <p>自分の考えを図や式などを用いて表したり、発表を通して自分の考えを説明したりする機会を多く設ける。</p>	<p>数量や図形に親しみをもたせるために、実生活に即した問題を取り上げたり、実際の物を計測したりする活動を多く取り入れる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>学習端末のデジタルドリルを活用して反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することで理解を深め、基礎的・</p>	<p>デジタル教科書やICT機器、目盛りが読みやすい教材などを用いて、段階的に1目盛りの大きさがどのくらいになるのか</p>	<p>少人数指導により、児童の実態に応じた課題設定や実生活に即した問題を取り上げることで、「できた」「わかった」とい</p>

<p>基本的な学習内容の定着を図る。 算数用語など、授業で扱うたびに全体確認をし、言葉や意味について繰り返し定着できるように確認する。また、実物として見せられるものには、実際に見せて用語の理解を深める。 作図の問題では、全体で手順を確認しなら進めるなどの手立てを講じ、丁寧に見取っていく。また、教え合う時間を設け、全員の習熟を図る。 学習端末のデジタル教科書を授業に取り入れ、円の構成要素に気付き、作図に繋げる。</p>	<p>見当をつけさせる。 ペア学習を取り入れるなど発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えを表現できるようにする。</p>	<p>う実感を味わわせ、児童の学習意欲を喚起する。 友達の考えのよさに気づいたり、自分の考え方を振り返ったりする「振り返りの時間」を毎時間設け、自己の学びの積み重ねを実感させ、主体的な学習態度を養う。</p>
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>十進位取り記数法を用いて、数の仕組みについて整理し、万などの小さい位の命数法から記数法への変換を行い、段階的に定着を図る。 反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することを通して基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 図や数直線のよさを実感させ、繰り返し使うことで数量関係を整理して演算決定につなげたり、説明するときに用いたりできるようにする。</p>	<p>発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えを説明したり記述したりするなど表現力の向上を図る。 互いの考えを伝え合い、話し合いながらよりよい考えを導き出す授業展開を工夫する。</p>	<p>少人数指導により、児童の実態に応じた課題設定や ICT 機器を使って作図のポイントを示すなどの工夫を行い、「できた」「わかった」という実感を味わわせ、児童の学習意欲を喚起する。 友達の考えのよさに気付いたり、自分の考え方を振り返ったりする「振り返りの時間」を毎時間設け、自己の学びの積み重ねを実感させ、主体的な学習態度を養う。</p>